

NEWSLETTER

THE JAPANESE SOCIETY FOR
PARAPSYCHOLOGY

December 1980

NO. 29

日本超心理学学会第13回大会の報告

12月20日、21日の2日におかれ、東京中野のサンプラザで第13回大会が開かれ、28人が参加し、研究発表に討論会と活気あふれる一時をすごしました。とくに今回はその半数以上が20代30代の新進気鋭な若い学生連で占められ、いさゝか超心理学も新しい転機の時を迎えていることと痛感致しました。1日目の研究発表はすべて発表者が何年も経って研究されているテーマであり、今回はとくにその質も深まり、質的な答えも大変豊富でしばしば時間が超過するありさまでした。発表内容については年報の形でもおれあきもとにおとどけしたと考えております。ついでに総会が開かれ、大谷会長の挨拶の後、金沢氏から事業、会計報告があり、議事として大会の発表を中心とした日本超心理年報NO.2を発行する件がまず討論されました。その際、財政上の問題と、学会誌を出したらという意見が出され、今後の課題として検討することになりました。2日目午前中は研究討論会「偶発的PSI現象調査の方法」が行われました。まず、大谷氏は「調査方法の概観」という題で調査の目的として、最初は超心理現象存在の証拠を求めたこととあったが最近では実験的研究への示唆・補足が主眼となって来たこととL. E. Rhineの研究をあげながら説明され、さらに、もう一つのねらいとしてPSI現象は人間の生活にとってどういう意味をもつか、生物はPSIをどのように利用しているかということがあるとのべられました。ついでに1973年から始めて13回にわたる御自分の調査の方法について、自由記述型、項目提示型、折衷型の3つを学生連に実施した結果を説明され、それらの長所、短所、特徴などについて語られました。次に菅原氏は「Deathbed調査の結果と調査表の検討」という題で日本における臨終の観察例について報告されました。これは1950年代末にOSISが作成し、調査した

栗本昨年郡博士が100名ほどの医師、看護婦等を対象として用いたもので、例数は約1300、その中で、超心理的考察の対象となる例は181あったと見えます。この領域は近年かなり注目され、Association for the Scientific Study of Near death phenomena という学会まで生まれてきていること。今回の報告は予備的なものであるが、このような調査は国際的規模で行うことが必要であると語られました。最後は松田氏の「評価法について」という話で、氏は評価には皆が認める尺度の存在が必要であるが、自然科学の精緻を目指す中心に、左の方向はミクロの世界が、右の方向には形而上の世界があり、右の方向では個人及び個人をのせる文化文明の観念的思想的枠組がその時期の尺度を構成するとのべられました。偶発的PSI現象評価ではどの辺の尺度位置で考えるかという点もあはならず、実験結果については偶然の一致談やM.ガードナーの「選別」や「成功のみを報告」の非難を排除し確固たる結論に基づいて考えさせるべきだと語られました。改めて討論に入り、事実をどう判定するか、体験時の記憶の歪みについて、評価者と熟練が必要なこと、モニターを設けたPSI現象記録の提案など、数々の重要な問題が提起され、活発な意見が交わられました。午後は大谷氏の第23回PA Conventionにおける日本の発表についての報告があり、清田君のPK実験の中間報告と、栗原氏との共同による実験の分析とについて、スライドを用いた興味深い説明がなされました。ついで、ニニホジウム「バイオリズムとPSI」が行われました。まず大谷氏が「ESPの周期性」という題をあげたのはESPとGSRの実験を続けるうちに、春、夏で傾向が異なることからESPの周期性に段々気がついてきたことによるとのべられました。さらにヒラス・フワット等のデータの分析もされ、ESP得点は夏が何となく高くなる傾向があるのではなかと示唆され、もっと多くの事例を集めて過去のデータを再分析し、ESPと生物-物理の生理的なものとの連関をつまらぬことが必要であると語ら

れました。次に長田氏は「生理周期とESP」という
 題で、ある女性の基礎体温とESP得点の間に規則的
 な関係が見られることを実験結果をもとに説明しまし
 ました。すなわち、ESP得点は低温期が高く、高温期
 に低くなるという結果でした。長田氏はさらにESPは
 未分化な全身的能力であり、子供や女性において、予
 後反応を考慮するときにより明らかになり得るべしと
 述べました。続いて自由討論が行われました。そして、
 討論は終了せんでした。いろいろ興味ある質問や
 題が話題となりました。夜は東王プラザの42階で懇
 親会がもちかれ、20人が出席し、中山正和先生のお話
 を聞いた。各自の抱負を述べたりする中で、和気あ
 りあいのうちに楽しい2時間があっという間に過ぎてしま
 いました。

お知らせ

第149回月例研究会

下記要領で1月例会を開催致します。
 時 1981年1月18日(日) 10.00~16.00
 場所 学士会館本館

東京千代田区神田錦町3の28

03-292-5931 地下鉄東西線竹橋下車

- 協議 1. 第13回大会の反省
 2. 年度計画について

なお、正午頃から昼食会と行う予定です。

会費は3000円。準備の都合がありますので

御出席の方は1月15日(木)まで

学会ニュース

第148回月例研究会

1980年11月16日(日) 10.00~16.00

場所 学士会館本館。出席者4名。第13回

大会の準備について。報告: William Dick &
 Isenry Gris "The new Soviet psychic Discoveries"
 (全訳)

NEWSLETTER 1980年12月22日発行 ©
 編集・発行: 日本超心理学会